



政府統計

報道関係者 各位

平成 27 年 12 月 15 日

【照会先】

大臣官房統計情報部

人口動態・保健社会統計課世帯統計室

縦断調査管理官 後藤 敬一郎

室長補佐 近藤 敬太 (内線 7473)

(担当) 出生児縦断統計企画係

平成 13 年出生児 (内線 7474)

平成 22 年出生児 (内線 7566)

(代表電話) 03(5253)1111

(直通電話) 03(3595)2413

第 13 回 21 世紀出生児縦断調査(平成 13 年出生児)及び 第 4 回 21 世紀出生児縦断調査(平成 22 年出生児)の結果

厚生労働省では、このほど、同じ集団を対象に毎年実施している「21 世紀出生児縦断調査(平成 13 年出生児)」の第 13 回(平成 26 年)及び「21 世紀出生児縦断調査(平成 22 年出生児)」の第 4 回(平成 25 年)の結果を取りまとめましたので、公表します。

21 世紀出生児縦断調査は、平成 13 年生まれ及び平成 22 年生まれの調査対象児について、生活実態や経年変化の状況を継続的に観察するとともに、平成 13 年出生児と平成 22 年出生児の比較対照等を行うことにより、少子化対策などの施策のための基礎資料を得ることを目的としています。

調査時点での子どもの年齢は、平成 13 年出生児の第 13 回調査が 13 歳(中学 1 年生)、平成 22 年出生児の第 4 回調査が 3 歳 6 か月です。

【調査結果のポイント】

< 第 13 回調査(平成 13 年出生児) >

1 母の就業状況の変化

母が有職の割合は第 1 回調査(出産半年後)の 25.1%から年々増加し、第 13 回調査(中学 1 年生)では 76.4% (5 頁 図 1)

2 子どもが思う悩みや不安

・男児より女児の方が、「悩みや不安がある」と答えた割合は高い。 (9 頁 図 6)

悩みや不安がある (男児) 29.0% (女児) 43.5%

・悩みや不安の相談相手は、男女ともに「母」の割合が最も高く、次いで、「友人」、「父」の順である。

	(男児)	(女児)
悩みや不安の相談相手 「母」	60.3%	67.0%
「友人」	35.7%	59.8%
「父」	30.9%	19.0%

(10 頁 図 8)

< 第 4 回調査(平成 22 年出生児) >

1 母の就業状況の変化

母が有職の割合は第 1 回調査(出産半年後)の 35.5%から年々増加し、第 4 回調査では 51.0%となっており、平成 13 年出生児第 4 回調査の 41.8%に比べ、9.2 ポイント高い。 (13 頁 図 1)

2 食事のようすで心配なこと

食事のようすで「心配なことがある」は 75.8%で、平成 13 年出生児第 4 回調査の 80.3%に比べ、4.5 ポイント低い。 (15 頁 表 3、参考表)

調査結果の詳細は、別添概況をご覧ください。